

主 題：クリスチャン 8**聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章8節**

パウロはコリントの教会の兄弟姉妹たちに対して、クリスチャンはどんなに大きな祝福を頂いた者たちなのかを明らかにしました。恐らく、皆さんもこれまで学んで来て、「私はなんと神さまによって祝われているのか！」ということにきっと気付かれたことでしょう。また、その真理が皆さんの心を励ましてくれていることを期待します。私たちはこれまで神のすばらしい祝福、神がクリスチャンに与えてくださった10個の祝福を学んでいる訳で、今日はその9個目です。8節をご覧ください。

1:8「主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで強く保ってくださいます。」。

9. 神によって完全に赦された者 8節

今日はここから、神によって与えられたすばらしい祝福、それはクリスチャンというのは「罪を完全に赦された者」であるということについてみことばを見ていきたいと思います。いろいろなところでいろいろな方たちと話しているときに、少し驚きを感じるのですが、自分の救いに関して疑問を持っているクリスチャンがいます。本当に自分は救われているのかどうか？と…。皆さんの中にそのような人がいないことを期待しますが、もしそうなら、簡単なアドバイスをすることが出来ます。もし、皆さんが救われているかどうか？そのことを疑っているなら、みことばを見ることです。神のみことばは、私たちにどうすればこの罪の赦しを得ることが出来るか、そのことは後で見えていきますが、それを教えています。ご自分に問いかければいいのです。神が教えてくださったこの救いを、私は心から信じているかどうかです。また、ある人は「私は救われているけれど、もしかすると、この救いを失ってしまうのではないか？」と言います。もし、そのように思ったり疑っているなら、同じように、みことばをチェックすればいいのです。神がそれについてどのように教えているかを見ることです。

最初にも話したように、今日、私たちは、クリスチャンは神によって完全に救われた者、つまり、完全に罪が赦された者であると話しました。同時に、私たちは今から、神によって救われた者は絶対に、絶対に救いを失わないということを見ていきます。パウロはそのことをここで教えようとしているのです。信仰者の皆さん、あなたが神によって救われるならば、あなたの救いは絶対に失われることがない、あなたの救いは永遠にあなたのものであります。実は、そのことを神のおことばであるこの聖書が明らかにしてくれています。

さて、今から8節を見ていきますが、幾つかのことは皆さんにとって新しい教えではありません。きっと良くご存じでしょう。私たちは幾つかのことをしっかりと順序を経て学んでいきます。

A. 救いは神の恵み

罪の赦しは神の恵みです。

1. 救いは神によって与えられる

1章4節ですでに学びましたが、「私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。」と、つまり、パウロはコリントの教会の兄弟たちのことを考える度に、神に感謝をしたのです。そのことがここに記されておりました。何を感謝したのでしょうか？コリントの兄弟たちが何をしたかではなくて、神がコリントの兄弟たちに何を為されたのか、そのことを覚えそのことを感謝したのです。パウロはコリントの兄弟たちに為された神の救いのみわざを覚え、そのみわざに感謝をしたのです。それがすでに見たこの4節で教えられたことでした。「神に感謝しています。」と、彼はそれが継続したものであることを教えます。パウロは彼らのことを覚える度に、神が彼らを救ってくださった！本当に感謝だと神に救いを感謝し続けていたのです。

確かに、救いは神のみわざです。私たちがどんなに心を入れ替えて、良い行ないを始めようと努力しても、私たちの力では主からこの罪の赦しを頂くことは出来ません。そして、私たちに不可能なことを神ご自身がしてくださったのです。尊いご自身のいのちと引き換えに私たちに救いを備えてくださり、そして、その救いを信じるあなたに、主はこの救いを無償で与えてくださったのです。あなたが特別な人間になったとか、何か特別なことをしたから救いをくださったのではありません。神は一方的にあなたにこの救いを与えてくださったのです。また、もっと考えるなら、「イエス・キリストを信じましょう」というその信仰に関しても、これまでの生き方は間違っていたからその生き方を捨てて、そして、主の前に正しい歩み、この主を信じてこの方に従って行こうというその悔い改めまで、すべては神が私

たちに与えてくださったものであると言えます。だから、救いは恵みだとみことばは教えるのです。恵みなのです。あなたが一生懸命努力して得たものではないのです。神があなたに与えてくださったものなのです。

皆さんもよくご存じのように、パウロがエペソ2：8でこのように言います。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」。みことばは明快に私たちに救いとはどういうものかを教えています。一方的な神からの恵みであると言います。恐らく、皆さんは本当にそのことを覚えて、日々この救いを与えてくださった神に感謝をささげておられることでしょう。是非、そのように歩み続けることです。

2. 救いは神によって守られる

では、次の点ではどうですか？確かに、救いは神によって与えられるものです。でも、実は、この救いは神によって守られるものでもあります。

1) 完全な救い

もしあなたが「もしかすると、私は救われてはいるが、救いを失ってしまうのではないか?」、そのような思いを少しでも抱いているなら、是非、このパウロの教えを聞いてください。パウロがここで明確に語っていることは、「神によって救われた人は絶対にその救いを失うことがない」ということです。なぜなら、神が与えてくださった救いは「完全な救い」だからです。8節に「主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、」とありますが、「責められるところのない者」と記されていることばに注目してください。この形容詞は新約聖書の中に5回出て来ます。このコリント人への手紙を除く他の4箇所では、すべて「非難されるところがなく」と訳されています。「責められるところがない」と訳されているのはここだけです。

特に、その4箇所の中の3箇所はすべて、教会の霊的リーダーたちである長老、また、執事の選出の条件の時に使われています。Iテモテ3：10「まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点が無ければ、執事の職につかせなさい。」、テトス1：6, 7「:6 それには、その人が、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、その子どもは不品行を責められたり、反抗的であつたりしない信者であることが条件です。:7 監督は神の家の管理者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気ではなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正な利を求めず、」、霊的なリーダーたちは「非難されるところのない人たち」でなければならないと、そのように使われています。ですから、霊的なリーダーたちはその歩みを吟味した上で、非難されるところがない者でなければならないというのです。

もう一箇所はコロサイ1：22です。「今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。」、ここで注目していただきたいのは初めの「今は」ということばです。パウロは「今、もうあなたは救われている」というその「今」を強調しているのです。今、あなたは救われている、この救いに与っているとそれを強調した後で、では、神は何のためにあなたを救ってくださったのか?という神の為さった二つのみわざをここで教えるのです。

◎救いの目的：神の為してくださった二つのみわざ

a) 神ご自身との和解

クリスチャンである私たちは父なる神と和解しました。敵として生まれてきた私たちが、イエス・キリストの贖いによって父なる神と和解した、もう、私たちは神の敵ではないのです。神に背を向けて生きて来た私たちではないのです。神の子どもとされ神との親しい交わりの中に入れられたのです。ローマ5：10に「もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」とある通りです。

b) 私たちを神の御前に立たせる

そして、二つ目に私たちを神の御前に立たせてくださることです。神の前に立つには条件があります。この神は聖い正しい神ですから、その方の前に立つためには、立つあなた自身が聖くなければならないということです。そこでその聖さを表わす三つの形容詞をパウロはこのコロサイ1：22で使っています。「聖く、傷なく、非難されるところのない者として」と、こうして三つの形容詞を用いて、あなたはこういう人に変えられた、あなたはこのように聖い人に変えられた、だから、聖い神の前に立つことができるのだと教えるのです。

(1) 聖く：「あなたは聖くされた」と言います。これは罪が赦されたというよりも、あなたは特別に神に用いられる器として生まれ変わったということです。クリスチャンの皆さん、主なる神があなたを罪から救い出してくださったのは、あなたが神にとって役に立つ者として用いられるためだと言うので

す。だから、「聖別」と言うのです。あなたは神にとって役に立つ者として新しいのちを頂いたのです。だから、私たちは主に仕えていこうとするのです。ここにいる皆さんすべてが、神によってこの救いに与った者たちです。神が用いようとしてくださっている、そのような存在です。だから、私たちは主に仕え、主の前に奉仕をして行こうとするのです。

(2) 傷なく：「欠点のない、無傷の、」ということです。つまり、傷、あなたのすべての罪が完全にいやされたのです。だから、今、あなたは聖い神の前に立つことができるのです。

(3) 非難されるところのない：これは「訴える、非のうちどころがない、非難できない、咎めるべきところのない」という意味を持ったことばが使われています。神は完全にあなたの罪を赦してくださったゆえに「非難されるところがない」と言われるのです。そのように聖められた者だから神の前に立つことが赦されたのです。このことについては後でもう少し見ていきます。

結論

皆さんに是非覚えていただきたいのは、クリスチャンというのはこのように変えられた人たちのことです。このように者へと完全に変えられたのです。なぜなら、神が与えてくださった救いは完全なものだからです。半分救われて半分救われていないというような人などいないのです。神がお救いになる場合、神のなさるみわざは完全なのです。神が救われたらあなたは完全に救われたのです。ですから、ヘブル人への手紙7章に著者はこのように私たちに教えています。7：25「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」「完全に救うことができになります。」とあります。この著者は大切なメッセージを私たちに教えようとするのです。神の救いとはどういうものか？ということです。

・完全に救うこと

だれを完全に救うことができるのですか？「ご自分によって神に近づく人々を」とあります。これは主イエスを信じる人たちのことです。つまり、ここで著者は「主イエスを信じる人々を神は完全に救うことができる」と言っているのです。この「完全に救うことが」というのは「完璧に、間違いなく確実に救う、間違いなく確実に罪の赦しを与える」ということです。ですから、神はイエスを信じる人々を、完璧に間違いなく確実に救い、その罪の赦しを与えてくださるということです。

・おできになります

そして、その後「おできになります」と続きます。すごい約束です。これは「神にはあなたを完全に救い出す、生まれ変わらせる、罪を赦すその力がある」ということです、それが神だと言っているのです。どんなにあなたが罪に汚れていようと、あなたが救いを求めて来るなら、神はあなたを完全に救ってくださるのです。神の前に赦すことの出来ない罪は一つを除いてありません。神が「赦そう」と言っておられるのに、その赦しを拒み続ける罪に対しては赦しがありません。なぜなら、その人は赦しを拒み続けるからです。しかし、もしあなたが神の前に「私の罪を赦してください。救ってください。」と救いを求めて出て来るなら、主はあなたの罪を完全に赦してくださる、その力がこの神にはあるのだとこのヘブル書は教えるのです。

ですから、主イエスを信じる人々を、神は完璧に、間違いなく確実に救ってくださり、そして、その力がこの神にはあるとみことばは言うのです。すごい約束だと思いませんか？しかし、これが私たちの神なのです。この方にはその力があるのです。ヘブル10：14でも著者はこのように教えています。

「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」「聖なるものとされた人々」とはクリスチャンたちのことです。「一つのささげ物」とは、主イエス・キリストのあの十字架の身代わりです。イエス・キリストのその身代わりによって神は救いを与えてくれると言います。しかも、「永遠に全うされた」という動詞は「完成する、完全に達成する、目標に到達する」という意味です。つまり、この著者は「イエス・キリストのあの十字架の贖いによって、主イエス・キリストがこの世にお見えになって、救いをもたらすというその目標に到達した。」と言うのです。救いを完全に達成なさったと。だから、私たちがイエス・キリストの十字架を見た時に、どんな罪人も赦すその救いを私たちはそこに見るのです。イエス・キリストの十字架は私たちのいかなる罪をも赦してくださる、その力を持ったものです。だから、永遠に全うされたというのです。ただ一度だけ、イエス・キリストのみからだがあの十字架でささげられることによって…。神が備えてくださったその救いは完全なものです。完全な救いを神は備えてくださったのです。

恐らく、多くの皆さんはこのことも知って、心から主に感謝しておられることでしょう。神が私をこのように救いへと導いてくださった、神のくださった救いは完全なものであると。

2) 完全な守り

確かに、神が与えてくださった救いは完全なものでした。神が救ったならその人のすべての罪が赦されます。同時に、この救いを考える時に、神の与えてくださった救いが完全なだけでなく、神の守りが完全だと言います。神の備えてくださった守りが完全だと言うのです。神はあなたを罪から救ってくださった、それで終わったのではありません。神はあなたを守り続けてくださるのです。

(1) 罪のさばきからの守り

今日のテキスト、1:8に「あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、」とあります。神の備えてくれる守りは完璧だと言いました。それは、あなたを罪のさばきから守ってくれるということです。言い方を変えると、あなたが罪のさばきに会うことは絶対にないということです。完全な救いを頂いたあなたに約束されていることは、あなたは絶対に罪のさばきに会うことがないと言うのです。それがこの8節の中にパウロが記していることです。

そして、ここに「主イエス・キリストの日に」と書かれています。その日に責められるところがないと言ったのです。では、この「日」とは何を意味しているのでしょうか？確かに、聖書には旧約の時代から「主の日」という教えがあります。「主の日」というのは、神のさばきが下される日のことです。神が人間の罪をさばかれるのです。そのことは旧約のときから警告されています。ここでは「主の日」とは書かずに「主イエス・キリストの日」と書かれています。全く違う出来事ではなく同じことを言っているようです。ただ、このことを私たちは覚えておかなければいけないのです。「主の日」と言った時に、ある一つのイベントを指すのではなく、時間の幅があるということです。「主の日」はキリストの空中携挙に始まります。そして、キリストの地上再臨をもって終わるのです。

この8節では、確かに「主の日」は「主の日」、「神のさばき」は「神のさばき」なのですが、ここでパウロが特に強調したことは、キリストがクリスチャンたちを迎えに来てくださるその空中携挙のことです。なぜなら、7節で「イエス・キリストの現われを待っています。」とあるからです。クリスチャンたちはキリストが帰って来てくださること、自分たちをキリストのもとに導いてくださる、招いてくださるその時を待っていると、前回学んだ通りです。ですから、「主の日」は「主の日」でも、私たちクリスチャンがこの主のもとに引き上げられる時、この空中携挙のことをパウロはここで言ったのでしょうか。パウロはその空中携挙の時に「あなたは非難されるところのない者として立つことができる」と言うのです。みことばをいくつか見ましょう。Ⅱコリント1:14「あなたがたは、ある程度は、私たちを理解しているのですから、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りであるということを、さらに十分に理解してくださるよう望むのです。」、ピリピ1:6、10「:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。」、「:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、」、ピリピ2:16「いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」、Ⅱペテロ3:10「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。」。

少し整理しましょう。イエスがあなたや私を迎えに来てくださる、そのイエス・キリストのもとに引き上げられたその後何が起こるのか？Ⅱコリント5:10にあるように「キリストのさばきの座」です。「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」。ですから、クリスチャンである皆さん、私たちが覚えておくことは、キリストが私たちを迎えに来てくださり、私たちはイエス・キリストのもとに引き上げられます。その後、私たちひとり一人はキリストのさばきの座に立つということです。そして、今見たⅡコリント5:10で教えるように、そこで神から私たちはさばきを頂くのです。でも、そのさばきというのは、神からの褒美を頂くときです。そこにおいて罪のさばきを受けることはないのです。なぜなら、それが今私たちが見ているところに記されているのです。

もう一度8節を見てください。「主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に」と、つまり、私たちがキリストの前に立つ時に「責められるところのない者として」守ってくださると言うことです。多くのクリスチャンたちが、真面目に真剣に自分自身を見つめています。自分自身に嘆いているクリスチャンたちはたくさんいます。神に喜ばれることをしていきたいという思いを持って歩んでいます。しかし、現実には、神を悲しませることが一杯あります。言わなくてもいいことを言ってしまうたり、しなくてもいいことをしてしまったり、私たちが考えることや想像することなど、そのすべてを考えると本当に悲しくなります。そのような多くの人たちの中に「私はこんなに罪深い存在だから、私は神の前に

立つことは出来ません。私はこんなに神を汚し続けているから、神を悲しませ続けているから、私は神の前に立つことが出来ません。」とそのように嘆いている方がたくさんいます。「こんな罪深い私を神はきっと受け入れてくださらないでしょう」と。そうすると、ある人は自分の救いまで疑い始めるのです。救われていると思っていたのに、日頃の自分の歩みを見る時に、余りの罪がそこにあって「きっと神は私のような者を受け入れてくださらないに違いない。」と。

パウロはこの1章8節で、主イエス・キリストの日に、主イエス・キリストの前に立った時に、責められるところのない者になる努力を怠らなければ、あなたは神の前に受け入れてもらえると、そのようなことを言っているではありません。あなたが一生懸命頑張って、そして、主の前に立つ時に、主があなたを見て「どこにも非難するところがない」と言って頂くために今一生懸命頑張らなければいけない、そうでなければ、神は私を非難させると、そういうことをパウロは言っているではありません。なぜなら、ここにいるすべてのクリスチャンは神の前に完全無欠な歩みをしていないからです。皆さん、あなたの罪深さはあなた以上に神がご存じです。そして、救いというのは神があなたを責められるところのない者としてくださったのです。先ほどから見て来ているように、これが「赦し」なのです。

クリスチャンというのは神がすべての罪を赦してくださったのです。過去も現在も、そして、これからの罪もすべての罪を完全に赦してくださったのです。だから、私たちは神の目に立つことができる訳です。もし、私たちが罪を持っていて責められるところがあるのなら、どのようにして神の前に立つことが出来ますか？神が言われていることは「あなたを責められるところのない者として生まれ変わらせた。」ということです。

(2) 神の守りの保証：堅く保ってください

その続きを見てください。神の完全な守りが教えられています。あなたを罪のさばきから守ってくださる、あなたは絶対に罪のさばきを受けることがないのです。同時に、神の守りがここに保証されているのです。8節の最後に「最後まで堅く保ってください。」とあります。Ⅱコリント1：21にも「私たちがあなたがたと一緒にキリストのうちに堅く保ち、私たちに油をそそがれた方は神です。」と、「堅く保つ」ということばが書かれています。このことばは新約聖書に8回出て来ますが、その意味について元ダラス神学校のSルイスジョンソン博士はこう言っています。「その当時、『安全が適切に保証された』という意味の法律用語として使われていた。」と。つまり、パウロがここで「最後まで堅く保ってください。」と言ったのは「保証」のことです。神ご自身が保証すると言っているのです。

◎「保証する」の意味

パウロはここで主によって贖なわれた者たち、主によって罪赦されて救われた者たちは、神ご自身がその人の救いを安全に保証してくださる、守ってくださると言うのです。先ほどから見て来たように、あなたがイエスを信じた時、神の前に責められるところがない者として生まれ変わりました。救われたのです。罪が赦されたのです。そして、神はあなたがキリストの日に神の前に立った時にも、責められるところがない者として守ってくださると言うのです。なぜなら、それが救いだからです。あなたが主イエス・キリストの前に立った時に、神はあなたの罪を全部示して、あなたはこんなことをした、あんなことをした、こういう考えを持った、こういう罪を犯したと、そういうことはなさらないのです。確かに、そのような考え方がいろいろな所に出て来ましたが、でも、このテキストを見た時に私たちが教えられるのは、私たちが神の前に立った時に、どれだけ神の前に神を悲しませることをして来たのかを私たち自身よく分かっていますが、神は「あなたには責められるところは何一つない。責めるところ、非難するところはない。」と言ってくださると言うことです。私たちクリスチャンはこのような救いを頂いたので、そして、その救いは神ご自身が保証してくださると言うのが、8節の後半でパウロが言ったことです。

思い出してください。ローマ8：33に「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。」とあります。だれが何のために訴えるのか？「神に選ばれた人々」とはクリスチャンであるあなたのことです。だれかがあなたを訴えると言うのです。あなたの何を訴えるのか？あなたの罪を訴えると言うのです。日夜、神の前で訴えている存在が聖書の中に記されています。それはサタンです。黙示録12：10に記されているように、「そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。

「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの權威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」、サタンは神の前であなたを訴え続けているのです。「この人はこんな罪を犯しているではないですか。この人はこんなことをしたではないですか。こんなことをやっているではないですか、考えているではないですか。」と訴え続けるのです。しかし、感謝なことに、もう主はあなたに対して無罪を宣言されたのです。その判決は覆らないの

です。もう、あなたはイエス・キリストによって責められるところのない者として生まれ変わったのです。サタンがどんなに責めても、あなたは責められるところがない、咎められるところがない、完全に赦された者として今生きているし、そのようにしてあなたは神の前に立つのです。

◎その理由

a) 主のとりなし：先ほど見たヘブル7：25の後半にこう書かれています。「…キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」と。イエスはあなたのために十字架で死に、死後よみがえり、そして今、天にあってあなたのために祈ってくれていると言うのです。主ご自身があなたのために祈っていると。Iヨハネ2：1でも「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。」と書いています。すごい約束を聖書は私たちに与えてくれています。もちろん、私たちは主によって罪を赦された者です。だからと言って罪を犯そうとは思いません。神を悲しませるものから離れていこう、神に喜んでいただくとうします。ですから、みことばに従って生きていこうとうします。

しかしながら、私たちは失敗の連続です。神がお喜びにならないことを選択しています。そのようなことを考えてしまいます。そして、悲しいことに、私たちは神の前に罪を犯すのです。でも、みことばが約束したことは、主イエス・キリストがあなたの弁護士であるということです。主イエス・キリストがこの罪のためにも「わたしは十字架で死にました。この罪はわたしの贖いによって赦されています」と、そのように弁護し続けてくださると言うのです。救われたということはどんなに大きな祝福でしょう！皆さん、神はすごいことをしてくださっているのです。

b) 主の約束：また、主イエスはこんな約束を与えられました。ヨハネの福音書6：37「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに來ます。そしてわたしのところに來る者を、わたしは決して捨てません。」と。私たちが主イエス・キリストのところに救いを求めていくなれば、主は私たちを救ってくださり、そして、神の約束は「わたしは絶対に救ったあなたを捨てない」です。このような約束を主が与えてくださいました。この宣言は神ご自身の宣言です。この約束は神ご自身の約束です。

クリスチャンの皆さん、神によって救われた者は絶対にその救いを失うことはありません。何度も繰り返して言うのは、神によって救われた人のことです。救われていると思いついでいる人たちのことではありません。神がその人を救ってくださったら、その人の救いは永遠のものです。

では、救われていることはどのようにして分かるのか？皆さんよくご存じのように、私たちのうちに神は変化をもたらしてくださったのです。「神に喜ばれることをしていきたい。神のみこころに従っていきたい。神の栄光を現わしていきたい。」と、そのような生まれながらに持っていなかった新しい思いが与えられたのです。イエスを見てはいないけれど、イエスに対する愛情が心に中にある、なぜ？神によって救われたからです。そのように神によって救われた人を神は絶対に捨てないと。罪が赦されて神の前に責められるところがなくなったあなたは、そのような姿を持って神の前に立つのです。

残念ながら、私たちはいろんなことを記憶しています。悲しい記憶です。しかし、あなたが神の前に立つときに「あなたは聖い」と神は言うてくださる。「わたしはこの人のすべての罪を赦した」と。そうして私たちはこの神の前に立てるのです。こんなすばらしい祝福を神はあなたにくださった。恵みとしてあなたに与えてくださった。あなたが何かをしたからではなく、神が一方的にあわれんでこの祝福の中に導いてくださったのです。

クリスチャンの皆さん、思いませんか？もっと感謝すべきだと！なぜなら、この救いは安くなかったからです。神ご自身のいのちがそこで支払われています。主イエス・キリストのそのいのちがそこで犠牲となりました。しかし、神が備えてくださった救いは完全なものであり、信じるすべての者を完全に救ってくださり、生まれ変わらせてくださり、神の前に立つことができる非難されるところがない者と生まれ変わって、私たちはそのような状態で主の前に立つ。そして、このことは神ご自身の約束だと言うのです。

あなたは自分の救いに関して疑いを持っていませんか？「私の救いはひょっとしたら失われてしまうのではないか？」と。信仰者の皆さん、確かにそう思う時があるかもしれません。でも、感情に立つのが我々の信仰ではないのです。我々は神のおことばに立つのです。この約束に立つのです。神の救いは完全だというみことばが教えてくれた真理に立つのです。そうして私たちは生きるのです。神が備えてくださったこの救いはあなたへの主の恵みです。そして、あなたへの主のみわざです。

今日、私たちが見てきたこの1章8節は、だれがこのような働きを為してくださるのかを明確に教えています。「主も、あなたがたを、」と、主がこのような働きをあなたのうちに為してくださると。主が

与えてくださった罪の赦しは完全な赦しであり、そして、赦しを与えてくださった神は全能で約束を守られる真実で完全な神なのです。だから、私たちはこの約束に立てるのです。

9節、次回見ていきますが、「神は真実であり、」と言います。真実さを強調しています。神は約束されたことを必ず守られる方であると言うのです。素晴らしいですね！この約束に立てるのです。神が言われたことを私たちは信じ、その約束に立てるのです。神の恵みによって救われたクリスチャンの皆さん、感謝しながらこの救いを味わってください。私たちは恐れながらその日を待つではありません。私たちは愛するこの主にお会いするのです。主が私たちを喜んで迎えてくださる、責められるところの何一つない者として…。そんな人へと私たちは生まれ変わったということです。

神の祝福、今日、私たちは「私たちは救いを絶対に失うことがない」と見て来ました。なぜなら、私たちは完全に罪が赦された者だからです。だから、こんな祝福を頂いたのです。皆さん、主にお会いする日を楽しみに今日生きることです。でも、そのためには、主が望んでおられることを、主の助けを頂いてしっかりと今日為していくことです。やるべきことをしっかりと備えをして、そして、この素晴らしい主にお会いすることを心待ちにすることです。あなたの罪は完全に永遠に赦された！感謝です！

《考えましょう》

1. 主によって救われた者が、救いを失うことなどあるのでしょうか？その理由もお書きください。
2. キリストのさばきの座において、各クリスチャンは、これまで犯してきたすべての罪が明らかにされてさばきを受けるのでしょうか？
3. どうして罪のさばきを受けないのでしょうか？
4. あなたは救われた感謝をどのように表わしていこうと、今日決心なさいましたか？